



横河電機健康保険組合
理事長 菅田 学

年頭の ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

事業主ならびに被保険者の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆さまも新聞等ですすでにご存知のように、健康保険組合全体の21年度経常収支予算は、6,206億円の赤字となり、前年度の3,060億円から、さらに赤字が拡大し、全組合の9割が赤字を見込む異常な事態となっています。その最大の要因は、高齢者医療制度の支援金・納付金等の過重な負担ですが、当健康保険組合も例外ではなく、21年度予算では保険料収入の6割強を占めております。また、年々増加する医療給付費も保険料収入の6割弱となり、それらは経常赤字22億円の主要因となっています。そのようななか、当健康保険組合は、平成15年度の法改正による総報酬制導入（賞与からも保険料を徴収）以降、保険料率を56／1,000に引き下げ、貯金を取り崩すことを前提にこれまで健保運営を続けてまいりました。しかし、貯金がなくなってきたことで現在の保険料率を維持することが困難になってしまったため、平成22年度には適正な保険料率に上げざるを得なくなりました。上げ幅につきましては、現在理事会で検討を重ねておりますが、2月開催予定の次回予算組合会で承認をいただいた後、けんぽだより等でご報告を致しますので、ご理解の程、宜しくお願いを致します。

また、現在日本では、増え続ける医療費への対応が大きな課題となっており、厚生労働省では、医療費適正化のための対策の一環として先発医薬品（新薬）よりも安価な後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進を掲げ、医療費の節減に取り組んでいます。昨年、健保連がまとめた「ジェネリック医薬品の使用促進に関するアンケート調査」では、ジェネリック医薬品の使用促進に取り組んでいる健康保険組合は、8割以上に及んでいます。当健康保険組合もこれまで「けんぽだより」等でお知らせをしてきておりますが、ジェネリック医薬品は健保財政だけでなく、ご利用いただいた方の家計にも優しい医薬品です。前回の秋号に差し込んだ「ジェネリック医薬品お願いカード」をご使用いただき、ぜひジェネリック医薬品をご利用いただきたく、お願いを致します。

新しい年を迎え、益々厳しい状況になることが予想されますが、職員一丸となり、皆さまの健康の維持・増進の担い手として努力するとともに、これからも組合財政の健全化と健康づくりへの取り組みをいっそう強化してまいりますので、これまで同様、ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

最後に、皆さま方とご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成22年元旦

